東京冀北会会報

東京冀北

20周年記念　第20号

東京掛中・掛西同窓会会報

二十周年に際して・・・・・サラリーマンの心構え

東京冀北会会長　河原崎　守彦（高九回卒）

東京冀北会は、平成元年の発足以来、今年でめでたく二十周年を迎えることとなりました。この間の歴代会長をはじめとする関係者の方々の多大なご尽力と、会員の皆様の暖かいご支援、ご協力に深く感謝申し上げます。また同時に、激しさの増すグローバルな競争社会の中にあって、同窓会は、私どもの心の中に残る青春の気分に、爽やかな微風を吹き込んでくれるものとして、今後とも大切に育てて頂きたいものと、念願しております。

さて、私事になって恐縮ですが、私は、この夏にサラリーマン生活を卒業しました。私なりに起伏のあったサラリーマン生活を振り返りつつ考えますと、サラリーマンの心構えとして、私にとって最もふさわしい言葉は、「知者は惑わず、仁者は憂えず、勇者は懼れず。」という論語のなかの孔子の言葉のように思います。もとより、今から約二千五百年前の孔子の時代にサラリーマンは存在しなかったと思いますし、孔子は、この知・仁・勇を君子の兼ね備えるべきものとして述べているのですが、私流の解釈をしますと、現代の諸々の組織の中にあって、組織人としてストレスを抱えながら仕事を進めていくためにも、知・仁・勇は必須の活力源であると思うのです。

平成19回東京冀北会総会・懇親会会計報告

(2007.11.8)

出席者

会　員	106	
来　賓	3	（掛川西高等学校校長、同窓会長、同窓会事務局長）
計	109名	

有料出席者	102名	（元応援団（現学生）4名は年会費のみ徴収とした。）
50年会費納入	77名	（231,000円）　一般会計　収入扱い
祝儀	3件	（掛川西高 校長、同窓会会長、同窓会事務局長様）
寄贈品	5件	赤岩　健様（高10）、石川嘉延様（高11）、鈴木建雄様（高12）、竹原繁男様（高16）、野川雅江様（高26）

収入の部

総会参加費（5,000円×102名）	510,000
祝　儀	30,000
計	540,000円(A)

支出の部

会場費（文祥堂イベントホール・看板費含む）	118,886
宴会費（銀座ブロッサム）	551,696
来賓お礼（銀座松屋）	9,298
総会運営費（会合費等）	45,000
雑費（振込手数料、備品運搬費）	5,130
計	730,010円(B)

差　収　入 (A) 540,000 － (B) 730,010 ＝ △190,010円

（一般会計より補填）

平成19年11月30日

東京冀北会　事務局長　山崎　進

平成19年度東京冀北会収支報告

平成19年4月1日～平成20年3月31日

（収入）	前年度繰越金	1,369,424
	年会費（郵便振替分）	636,000（212名）
	〃　（現金納入分）	231,000（77名）
	総会懇親会参加費	510,000（102名）
	役員・幹事会費（個人負担）	141,000（47名）
	雑収入（祝儀・預金利息）	30,131
	計	2,917,555円（A）
（支出）	印刷費（総会通知一式、会報、宛名シール、封入作業費他）	488,670
	総会通知郵送費（1,535通）	122,800
	総会返信後納費（380通）	24,700 ※1
	総会・懇親会費	730,010
	会合費（幹事会・役員会等）	217,055 ※2
	出張・祝儀費	37,500
	通信物流費（郵便、宅配便等）	52,470
	事務費（事務用品、管理費等）	95,978
	会員名簿管理データー更新費	308,700 ※3
	計	2,077,883円（B）

（収支残高）（A － B）＝ 839,672円（次年度繰越金）

※1：総会出欠返信料受取人払いにした。
※2：役員・幹事会は個人負担141,000円（@3,000×延47名）を徴収。
※3：個人情報漏洩防止対策を含む。

会計監査　遠藤　義明（高16回卒）
会計監査　森田　重敏（高21回卒）

編集後記

何はともあれ、東京冀北会設立二十年周年を迎えたことを、会員諸氏とともに慶びたいと思います。

思いおこせば、平成元年十一月虎ノ門パストラルの大ホールで約五百名の掛中・掛西卒業生が一同に会しての設立総会が挙行され、熱気と感激が昨日のことのように思われる。特に初代会長の岡本甲子男氏からの"会を創ることは簡単、継続は難しい"この一言が脳裏に焼きついて今日に至っている。

その後、何とはなしに軽い気持ちで事務局長を引き継いで、五年が経ち試行錯誤の毎日ですが、会員の皆様方からの励ましのお言葉が何よりです。

二十回記念総会が終れば、三十年に向けてのスタートです。"継続は力"を座右の銘として気張らず、焦らず、皆で楽しい東京冀北会の隆盛を望みたいものです。

乞う！さらなるご理解とご支援を

（Y記）

発行日　平成二十年十一月六日
発行者　河原崎　守彦
発　行　東京冀北会事務局
印　刷　㈱文洋社

校歌

作詞　藤井金吾
作曲　塙　福寿

一、岩根こごしき天守台
その麓にぞわが校は
基定めて逆川の
栄え行くこそ楽しけれ

二、雨降り嵐すさぶとも
指してや行かむ小笠山
希望の懸を射るまでは
めげず撓まず屈折れず

六、やがてまことの勲なし
誉れは栄ゆる百々錦
飾りて花の色そへよ
大和島根の山桜

私流の解釈では、知者として最も必要なことは、先見性であると思います。誰にとっても将来のことは確認できないのですから、それだけに、現状及び将来についての豊富な情報を集めて、できるだけ正確な根拠に基づく予測をすること（更に言えば、その予測をもとに対応策を構想すること）が極めて重要であり、このような備えのある人は、惑うことが少ないだろうと思うのです。仁者については、論語の中にも多く論じられているのですが、私なりに大胆に集約すれば、思いやりが基本にあるのではないでしょうか。組織の内外の人の意見や立場を尊重し、できればお互いの共通の基盤を見出すことは、他人との折衝における要点でしょうし、特にチームワークを重んじるわが国の組織では、人柄の良さが求められ、高く評価されることを考えますと、思いやりに基づく行動、自らの良心に恥じない行動をとることが、悩みを少なくする要諦のように思います。勇者については、孔子も蛮勇は評価しておりませんし、サラリーマンとしては、事に当たって逃げないで肝をすえて掛かるとう覚悟を重視すべきであると思います。

論語については、大貫先輩もいくつかの著作を著しておられますし、古今の多くの注釈書を参考にして頂きたいのですが、現代のように利益優先の時代、マニュアルや基準が重視される時代にあって、サラリーマンとしてのみならず、人間として大切なものは何かを教えてくれる教本として、現代においてもなお貴重なものであると思います。なお、英語にもこのような言葉があることをご存知のことと思います。

「Warm heart, Cool head, Strong arm」

東京冀北第二十回記念号 知事メッセージ

静岡県知事　石川嘉延（高十一回卒）

東京冀北会が設立二十周年を迎えられましたことを心からお慶び申し上げます。

東京冀北会は、平成元年に岡本甲子男初代会長が中心となり、首都圏在住の掛川中学・掛川西高等学校卒業の同窓生に呼び掛け、第一回東京冀北会を開催以来、毎年盛大に開催されております。ここに改めて、歴代の会長、役員を始めとする会員の皆様の御尽力に深く敬意を表するものであります。

今日、世界経済の変化の中で、我が国の経済力をいかに保つのか、また、人口減少が現実のものとなる中、社会保障制度の維持、少子化問題や地方経済の活性化などへの対応が重要になってきております。

こうした課題を克服し、希望を抱ける未来を切り開いていくためには、一人ひとりが生活の在り方を見直し、社会全体の生産性を向上させることが不可欠であると考えております。

静岡県では、「富国有徳　創知協働」を県政運営の基本理念に掲げ、県民の皆様とともに創造性を発揮し、知恵を出し合い、協働していくことで「県民くらし満足度日本一」の実現に挑んでおります。

いよいよ来年三月に開港する富士山静岡空港については、県民生活や本県産業経済の一層の飛躍の基盤とするべく、路線確保を始め万全の開港準備を進めております。九月末において、札幌、福岡、沖縄、小松、熊本、鹿児島への国内路線の他に、韓国のソウルへの就航が決定しており、首都圏の空港との組合せによる広域的な観光なども可能になるなど、本県の一層の活性化にも寄与するものと考えております。

また、日本人の誇りである富士山については、国民の財産・日本のシンボルとして後世へ継承していくため、今後も世界文化遺産登録への理解の醸成と幅広い機運の盛り上げに努めてまいります。

政治経済の中心地である首都圏で御活躍の皆様には、ふるさと静岡県の発展のため、今後とも忌憚のない御意見、また御支援をお願い申し上げますとともに、東京冀北会のますますの御発展と会員の皆様の御健勝を心からお祈り申し上げ、お祝いの言葉といたします。

都会の生活と田舎暮らし（二地域居住の勧め）

前掛川西高校　同窓会長　小関　栄（高二回卒）

第二十回記念東京冀北会総会懇親会の開催おめでとうございます。東京冀北会は平成元年に、岡本甲子男会長、内田悌四郎副会長、幹事岡本敏氏、大貫満雄氏、石川雅信氏などの大先輩に、石川嘉延知事、杉田隆氏とともに私なども発起人となって、数回の会合と準備により設立されました。初回総会は会場の虎ノ門パストラルに溢れる五百余の会員が参加して世話人一同大慌てだった記憶が今でも残っています。

当時の私は、平日は横浜、休日は掛川での二地域の生活で、新幹線利用の金帰月来をして東京の会社勤務（会報東京冀北会第五号掲載「東京に勤務する在浜掛川市民」）していたが、今は仕事上から掛川に住民票は移したものの、相変わらず二つの住居を行ったり来たりの生活を続けている。

平成十一年に我が家のすぐ近くに国交省外郭団体「ふるさと回帰支援センター」の実験農場が出来た。ここは光陽の里といって任意団体「学園はなの村」が斡旋・管理の約十一ヘクタールの農地である。ここに応募した六十余世帯の家族が家庭菜園をしている。はなの村会員は市内近郊が多いが、東京、横浜、川崎、名古屋などから通っている。各戸数ごと数アールから十アールほどの農地を借りる、中には農業小屋を建てたり、近くに借家までして泊まり込みの農業をしている。また、三年程前には近隣丘陵地にも同様な“倉馬の里”という農場が出来、ここにも東京、神奈川など都会の人たちが農業を楽しみ働いている。

最近は、国交省でも団塊の世代にサラリーマンの退職を機に、ふるさとに帰ることを呼びかけているし、当地でも農地荒廃防止の観点から農地を借用した小さな農業経営や家庭菜園作りを歓迎している。

私の場合は、都会での勤務と田舎の実家の管理上、結果的に二つの住居を持って、都会の生活で高度な文化、便利な生活、大勢の人達との交流をし、田舎暮らしで静寂な自然豊かな環境でスローライフの生活をエンジョイすることが出来た。二地域居住は双方の良さを享受し、心に余裕をもたらすことが出来るので実に快適である。

この様な二地域居住は欧米ではかなり普及してきており、スウェーデンでは国民の約半数がセカンドハウスを利用と云われる。日本でも

次第に多くなり国交省の勧める二地域居住は、先般の八月十日の日経新聞によれば今年七月末で一九七万世帯になったと報じられている。

私は、会う人ごとにリタイアー後でなくとも現役世代の人たちにも、この二地域に住居を持った豊かな生活スタイルをお勧めしている。

東京冀北会二十周年に想う

東京冀北会　初代会長　岡　本　甲子男
（中三十八回卒）

政治の混迷、経済の不安、行政の怠慢、倫理の退廃、等々情ない現状から国の前途に危惧を抱くのは高齢者も若い世代も同じです。『志を失ってさ迷う日本』とは昨今内外から日本に対する厳しい批判です。

先日、掛川市出身の伊藤和也さんが高い志を抱き情熱を注いだアフガニスタンで仕事半ばに若い命を奪はれたことは口惜しい限りです。そしてこの悲劇の報せに同郷の我々が受けた感動はまた格別だったと思います。

さて、我々の母校、掛川中学、西高の歴史を顧みると明治九年（一八七七）岡田良一郎氏が倉真村の私邸内に冀北学舎を設立して、遠州地域をはじめ県内外から向学の子弟を集め寄宿舎生活の教育を始めました。中国の冀北地方が名馬の産地であり、この学舎から俊才が育つ事を念頭して"冀北"の名を掲げたのです。

そして明治十二年（一八八〇）公立の掛川中学校が開設されて岡田氏はその校長を兼務されたので四年后に学舎を閉じることになりました。

ところで学舎が輩出した人材の一人、明治の憲政指導者松本君平氏は十二歳で学舎に入り漢学の素養を身につけ洋書に親しみ西洋の歴史、思想、文化に触れました。十四歳で東京に遊学、二十歳で念願のアメリカに留学、そこで政治、経済や欧米の思潮を学び、新聞記者の実務にも携わりました。帰国後は東京政治学校を開校して国家有用の人材育成に努めましたが、日清、日露の戦勝で近代国家、列強の仲間入りして自負慢心の昂じた国民に対し『富国強兵や領土拡大より"国民の品性"こそが"国民の真価"である』と国民的理想を掲げて立憲政治の発展と社会の教化に大きな足跡を残されました。

氏は中内田村の素封家、豪農の出身でしたが現在屋敷跡には"井戸も塀も"ありません。志高く実行力のある爲政者の登場が待たれる今日私はこの先覚者が生れた村に生を享けて"冀北"につながる縁に恵まれた事に密かな誇りを覚えます。

我々、郷土への思いは格別なもので齢を重ねるほど深まるものです。東京冀北会二十周年を迎えて忘れていけないも一人の松本先輩にお礼を申し上げます。

昭和三年、掛川中学二十四回卒、松本信孝氏です。氏は昭和四十年代、既に在京の掛中同窓会の幹事を熱心に続けて下さり、その後高齢にもかゝわらず当冀北会発足当初までおつきあいを頂きました。

郷党同窓の伝統ある当会の存続発展を念じてやみません。

冀北のルーツ

東京冀北会二代会長　大　貫　満　雄
（中四十一回卒）
筆名　三戸岡　道夫

歳月の流れるのははやいもので、東京冀北会が創立されてはやくも二十年、まことにおめでとうございます。

この機会にわれわれ同窓会がなぜ冀北という名前を使っているのか、ちょっとふり返ってみたいと思う。

それは掛中・掛西の初代校長である岡田良一郎が明治時代に「冀北学舎」という私塾を開いていたからである。冀北とは、

（伯楽、冀北の野を過ぎて、馬群遂に空し）

という中国の句に由来し、冀北とは中国の名馬の産地であり、伯楽というのは、中国周代の馬の良否を見分ける名人であった。

岡田良一郎の本業は、二宮金次郎の報徳思想を普及する大日本報徳社の二代目社長であった。報徳思想は仁の精神を根底に置いた、勤労、分度、推譲という三大徳目であるが、岡田良一郎はさらに四つめの徳目として教育を加えるという、教育熱心であった。そして自分でも私塾を開いて青年の教育に当ったのであるが、その私塾から名馬（有能な人間）がたくさん出るようにとの願いから、冀北学舎と名前をつけたのである。

そこで明治十三年（一八八〇）十月一日に掛川中学校が設立されると、教育熱心さを買われて初代校長に任命されたのである。掛川中学校当初の生徒数は三十三名で、教員は五名だった。岡田良一郎は校長として、毎月土曜日には校内演説会を開いた。

教頭は林維純、二等教諭は堀内政治郎、三等教諭は黒川正、三等助教諭は新荘直義、末吉英吉であり、堀内政治郎と末吉英吉はそれまで冀北学舎の教師であった。

なお掛川中学校開設後も冀北学舎は続けられたが、明治十七年に閉鎖された。（なおその建物は現在大日本報徳社の敷地の中に保存されている）。

このようないきさつから、われわれ同窓会は冀北会という名前を使っているのである。

現在、二十一世紀の混沌とした世相の中にあって、われわれ冀北会の中にも、岡田良一郎の精神を甦らせた、冀北報徳会というようなものが生れても、いいのではないかと思われる。

東京冀北会二十周年記念に寄せて

東京冀北会前会長　杉田　隆（高四回卒）

◇…アッという間の十年、そして二十年

『平成』のスタートとともに旗上げしたわれらが東京冀北会、振り返ればこの二十年間は一口には言い表せない。思い出ぼろぼろである。

◇…スタートダッシュ成る

えいっやで発足に踏み切り、先ずは基盤作りに砕身した。が、あれからもう二十年たったのか？　というのが実感だ。余りに年月の経過の早さに今は驚くばかりである。因みに、「十周年記念号」に載せた座談会があるが、えらく好評だったのでその一部を紹介しよう。その概略はこうだ。

知事に聞く　座談会　抜粋

〔座談会・出席者〕（敬称　略）

静岡県知事　石川嘉延（高十一回卒）

東京冀北会副会長　杉田　隆（高四回卒）
代表幹事　河原崎守彦（高九回卒）
事務局長代行　鈴木正具（高十九回卒）
会員　青木克守（高十一回卒代表）
会員　野末栄一（高十一回卒代表）

「感性・活力・快適」で展望
―石川知事、郷里に熱き思い―

杉田（司会）　平成の始まりとともに旗上げした東京冀北会も早いもので十年。石川知事は産みの親、育ての親としてずっと中心的存在だったんですよね。で、事務局が同期の方も交えて知事を囲んでいろいろお話を承ろうと……。振り返って印象に残るようなこと、まずはきっかけといったものからいかがですか。

◇…ネットワーキングの時代

知事　掛西の同窓会が不活発で活発化しよう、という声が十五年位前に出ていましてね。そこで掛川近辺に在住のひまというか時間をもて余している人の（笑）集まりみたいな印象というんでこれじゃいかんと。四十、五十、六十歳に当年なった人が当番になってやる新しいシステムでやって活性化しようという動きが始まった。これが十五年前だからもう五、六年経っていた頃です。それで強固にするため各地にも支部組織の結成を呼びかけていたんですよ。活躍している人も多いし。ちょうどその当時ネットワークという言葉が流行り出してきた時代でした。例えば、銀行は金を貸す時に土地を担保にとれば大丈夫、ということに象徴されるように資産、資本、会社の規模などに重きを置いて、世の中が動くから少しづつ物より情報や知恵の価値が高くなる兆候が現れてきたことがあったと思います。ネットワーキングを広めるには、どうしたらいいか。同窓会はそのいい手段だから今呼びかければ集まってくるんじゃないか。調べてみたら首都圏には同窓生が二千七、八百人もいて各方面で活躍している。その一割でも毎年二百七、八十人集まれる。静高や沼津東なんか何年も前から東京で同窓会やっている様子。するとそれだけでも大成功と考えたので、西高もやらなきゃと、たまたまつき合いのあった先輩の杉田さんをたきつけて（笑）始まったわけで……。

杉田　それで「人的なネットワーキングの時代を迎え」と旗上げの趣意書で強調した。「東京にも同窓会を、の声が澎湃として起こり」と。こんな場合の決まり文句だから（笑）。「待てよ、ホウハイってどんな字だっけ、なんてことありましたね（笑）。

鈴木　懐かしい話ですね。これがその〝旗上げ文〟ですよ。

杉田　知事の話を聞くにつけても、知事がいなかったら東京に果たして同窓会ができたかと思いますね。知事のオルガナイザーとしての手腕、決断と実行力。大体こういうものは誰が何をという段になるとなかなか……。

杉田　同窓の絆から人の輪も広がるんですが、人と人との交流を踏まえて、知事として郷土作りの思いはいかがでしょう。

◇…郷土作りの方向は

知事　たまたま「冀北」に琉球大学医学部の先生（寺島貢一氏、高八回卒）が書いていて恐らく余り帰っていないと思うけど、私が思っていることと同じだなとびっくりしてですね。掛川小笠で生まれ育って県外へ出てみると、なんて静岡県は恵まれた場所だったかと、いかにみんな感じていないか、感じていないから逆に恵まれた条件がこのまま行くとどんどん失われてしまうことへの感受性もないわけでしょ。私も外へ出たんだけど郷土への思いも強かったので帰って知事の立場で仕事をしていますが、この先生と同じ思いで静岡はもっとがんばらなきゃ、自覚目覚めてやらなきゃいかんと、そういう思いですね。それで離れてみないとわからないですよね。東京冀北会の人達も静岡、掛川、小笠はいいなと思う面と歯がゆいと思う面と両方感じていると思うんですよ。

鈴木　静岡は定年になって住んでみたいというナンバーワンですよね。

知事　同窓会に出ると静岡以外の他地区の人達からの静岡への歯がゆい思いを込めた発言を聞けるので、それを帰って仕事をする上の材料にしているんですけどね。好意ある批判は大きな糧です。

河原崎　これからどう

いう方向へ力を入れてもって行ったらいいでしょう。

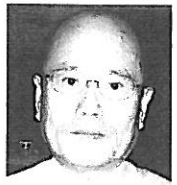
◇…県政で“三K”ビジョン

知事　私は最近「三K」と言っているんですよ。「感性」豊かで「活力」に満ちた「快適」空間シズオカというキャッチフレーズにして、この三つをキーワードに地域作りをしようと。日本は感性がなかったとは言わないけど、どっちかと言うと知力、技術の力でのし上がってきたでしょ。トップレベルにいるため、もうひとつ抜け出すには「感性」を磨いて発揮して行かないといけないんじゃないか。「感性」で勝負すればと。一部そういう方向が見えているけど、もっと自覚し高めて行く「感性」で勝負すればと。知力、技術、ハイテクはいいか悪いかが判断基準だが、「感性」は好きか、嫌いかでしょ。

東京裳北会(東京掛中掛西同窓会)設立発起人

小野　治郎八（中一一回卒）　松本　信孝（中一一四回卒）　鈴木　知常（中一一四回卒）　大野　清（中一一六回卒）
鈴木　克也（中一一九回卒）　渡辺　春彦（中一二一回卒）　小柴　良知（中二一回卒）　鈴木　善朗（中二一四回卒）
馬渕　俊郎（中一一九回卒）　河合　久夫（中一一七回卒）　関野　雅（中二一一回卒）　岡本　甲子男（中二一八回卒）
鈴木　由次（中一一八回卒）　内田　博三郎（中一四一回卒）　大貫　満雄（中四一回卒）　岡本　敏（中四一二回卒）
殿木　啓二（中四一四回卒）　月花　靖雄（中四一四回卒）　石川　雅信（高一回卒）　天野　乙和（高一回卒）
小関　栄（高一回卒）　関道　直（高一回卒）　秋山　尚（高三回卒）　杉田　隆（高四回卒）
田塩　邦通（高四回卒）　白畑　司朗（高四回卒）　川島　次郎（高五回卒）　花島　浩（高五回卒）
角木　雄二（高六回卒）　内田　太治郎（高六回卒）　松下　弘（高七回卒）　長谷川　正之（高七回卒）
佐野　均夫（高八回卒）　加藤　久雄（高八回卒）　河原崎　守彦（高九回卒）　岡山　晃（高九回卒）
平尾　金治郎（高十回卒）　力代　利一（高十回卒）　石川　嘉延（高十回卒）　中山　重興（高十回卒）
伊藤　規（高十一回卒）　落合　成（高十一回卒）　海野　健一（高一回卒）　小関　肆司（高十四回卒）
鈴木　穣（高十五回卒）　永田　和美（高十五回卒）　山本　洋司（高十五回卒）　鈴木　正芳（高十六回卒）
渡辺　明（高十六回卒）　小沢　真吾（高十七回卒）　樽林　俊雄（高十八回卒）　太田　宗男（高十八回卒）
橋本　和久（高十九回卒）　鈴木　正（高十九回卒）　赤堀　実（高二回卒）　伊藤　敏治（高二回卒）
横山　信司（高二十回卒）　小沢　進（高二一回卒）　山村　昌弘（高二二回卒）　山田　克己（高二二回卒）
高柳　陽生（高二五回卒）　山下　進（高二五回卒）　石川　仁（高二六回卒）　粂田　昌志（高二七回卒）

サハラの卵には黄身がない



鈴木昌也（高十八回卒）

私は工学部の資源工学科を出て、ある鉱山会社に就職いたしました。四国の山の中の佐々連（さざれ）という銅鉱山を振り出しに、岐阜の白川郷、山形の朝日連山中の鉱山に勤務した後は、もっぱら海外で資源開発の仕事に携わってきました。国ではトルコ、パプアニューギニア、ニジェール、アメリカ、オーストラリア、ニューカレドニア、中国、フィリピン、インドネシアなど、鉱種では銅、鉛亜鉛、金銀、ウラン、モリブデン、クロム、ニッケルなどに関わってきました。

中でも一番印象に残っているのが、初めて家族を同伴した、ニジェールのウラン鉱山です。何もない砂漠の中に、無理やり作った人口約一万人の鉱山街に、日本人は我々家族三人だけです。娘は幼稚園の年長でしたが、いきなりフランス語のなかに放り込まれ、大変な思いだったでしょう。それでも初日こそ泣いて先生を困らせたのですが、すぐに溶け込んでくれたのが親としては、ほっとしたものです。

三年間のサハラの生活では、一晩や二晩では語りつくせないほどのエピソードがあるのですが、その中のほんの一つをご紹介しましょう。

暮し始めて間もない頃、台所から家内の「ギャー！」とうい声が聞こえました。何事かと駆けつけると、「卵に黄身がない！」というのです。それはボーイがローカルの市場で買ってきた物だったのですが、黄身はあるにはあるのですが、ほとんど色がついていないのです。栄養失調なのでしょう。それに懲りて、卵は自家調達しようと、鶏を飼い始めました。ホームパーティの残り物の肉や、チーズをたっぷり食べた鶏は、見事な卵を朝食のテーブルに提供してくれたのです。

・・・片足をギプスで固めたパイロットの話や、あわや胴体着陸！のエピソード、砂嵐のすさまじさ、国際電話がやっと開通したので喜んだものの、日本から聞こえてきたのは太平洋の波の音？の話など、ご紹介したい話は多々あるのですが、それはまた別の機会に。

ソウルの街角で

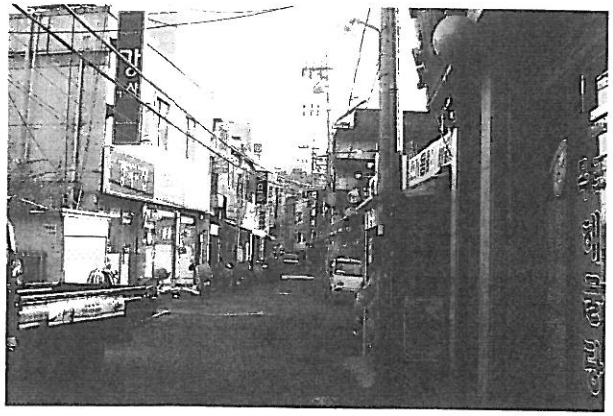
伊与部　みち子（高二十一卒）

二〇〇四年にテレビドラマ「冬のソナタ」が大きな話題になり、その後韓流ブームが起った時私はイケメンの韓国スターに何の関心も持たなかった。空港でヨン様を大騒ぎで迎える中年女性達を「暇な人たちね」と冷ややかな眼で見ていた。一部の若者の間に広まった「反日」に対する「嫌韓」という現象にも共感は持てなかった。そして古い世代の差別意識や偏見も理解できなかった。要するに私は韓国という国に何の関心も知識も持っていなかった。日本とは一衣帯水の国で、地理的にも歴史的にも文化的にも大きな関わりがあるにも拘らず、だ。だから主人から「韓国へ転勤になった」と聞かされたときは本当に驚いた。

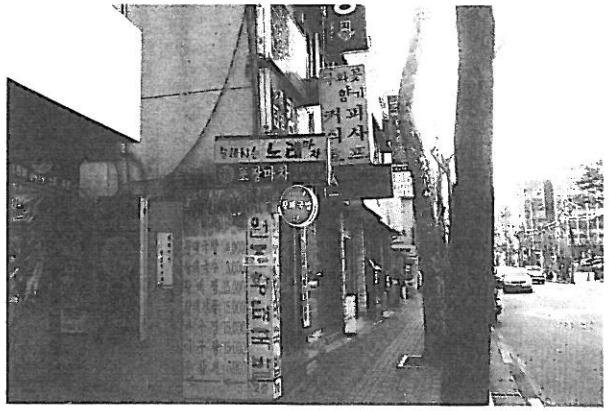
一昨年の年末に私は生まれて初めて韓国へ行った。知っている言葉と言えば、アンニョンハセヨだけだった。そして韓国での生活が始まった。

最初は道行く人々の外見は日本人と変わらないので、それほど「外国に来た」という印象は強くなかった。しかし、言葉が分からないというのは何と不便なことだろう。街の看板が読めない、地下鉄の駅名も読めない、テレビをつけても分からない、もちろん新聞も読めない。それ以前に買物ができない!!仕方がないので、延世大学付属の語学堂というところでカナダラマバサつまりアイウエオから習うことにした。少しハングルが読めるようになった頃、近所の店の看板を見てやっと意味が分かった。プドンサン…不動産だ！チュチャジャン　むむ？どこかで聞いたような…そうだ駐車場だ！これらはきっと幼稚園児が初めて文字が読めるようになった時の喜びと同じものだろう。ああ、でも看板にほんの少しでも漢字か英語を使っていてくれたら…漢字排除政策をとっている韓国政府に政策転換をお願いできないものだろうか。

韓国語は満足にできなくても、私は地図を片手にソウル市内を歩き回った。当然のことながらよく道に迷った。そして街中で途方にくれて



いるおばさんに対して韓国の人々は親切だった。目的の場所まで教えたとおりに行けそうもないと分かると、わざわざ目的地まで連れて行ってくれた。「私はイルボンサラム（日本人）」と言ったら冷たい態度を取られるのではないかと少し怖かったが、全くそんなことはなかった。少し韓国語が上達して、教えられた道の行き方が理解できるようになっても、やはり目的の場所まで一緒に行ってくれる人々がいた。これは外国人に対してのみ親切なのだろうか。いや、違う。地下鉄内で時々目撃したことだが、少し離れたところに老人がいると「おばあさん、ここに座って下さい」とわざわざ声をかけに行くのだ。東京では眼前に老人がいても席を譲らない人もいるのだが。ある時電車から降りようとして老婆が倒れた。二メートル先にいた私は「どうしよう」と内心おろおろしただけだったが、当然のように数人の若者がさっと駆け寄り、駅の事務室かどこかへ老婆の体を抱き抱えて行った。それは本当に感動的な光景だった。要するに韓国人は親切なのだ。



数年前までは居酒屋で日本語が聞こえると嫌な顔をされたという話を聞いた。バスの運転手に韓国語で話しかけたら、「お前は日本人か。私は日本人が嫌いだ」と言われたという駐在員夫人の話も聞いた。しかし、私は個人的に嫌な思いをしたことは一度もなかった。対日感情は好転したのだろうか。それとも反日はマスメディアがオーバーに伝えているだけなのだろうか。もし対日感情が変化したとしたら、複数の要因があるだろうが、そのひとつに韓流ブームがあるのではないだろうか。今まで親から昔日本人に受けた差別や過酷な扱いを聞かされ、強い被害者意識を持っていた韓国人が「韓国人スターが日本人女性に大人気」と知った時、新鮮な驚きを持ったのではないだろうか。誰しも憧れられ、愛されて不愉快になる人はいない。もしソウルオリンピックを成功させ、世界第十二位の経済大国に成長して自信を持った韓国人に、自国の男性の魅力に気づいてくれた日本人に対して優しい気持ちが生まれたとしたら、私はヨン様大好きおば様達に感謝しなければならない。

●二十周年に一言●

岡田　良雄　中二十四回卒
父は今年九十八歳、歯も自分の歯で二十―八十を達成です。家の中は歩いて元気にしておりますが外へは出掛けませんので欠席とさせて頂きます。（娘）

丸尾　武二　中二十六回卒
二十周年に亘りお目出とうございます。今後共いろいろとご苦労をお掛けいたします。よろしくお願い申し上げます。

鈴木　善則　中三十四回卒
お世話様、皆さんのお骨折に衷心より敬意を表します。二十年!!唯々見事という他なし。東京冀北会の一層の発展を祈念いたします。
私、腰痛のため歩行もつらく、勝手ながら欠席ご了承下さい。

福島　清　中三十四回卒
身体が不自由のため毎度欠席して申訳けありません。会も二十周年を迎え益々の発展を希みます。同窓諸氏の健康を祈りますと共に母校の発展を切に望みます。

馬渕　俊郎　中三十五回卒
東京冀北会の設立総会の盛会を思い起します。当時の役員、先輩、同輩も多く鬼籍に入り感慨無量。
我が身も高齢で境びの輪に臨むことも叶うべくもなく一十年の年の重みを感じます。

ご盛会を祈ります。

鈴木　博人　中四十回卒
二十回記念、お目出とうございます。
私ども中四十卒の同級生も段々数少なくなってきましたが、年一回の同級会では五十人近く集まります。東京からも五人程度は出席しています。

白川　和則　中四十一回卒
超後期高齢者になり、最近はゴルフも止め、囲碁と園芸の日々です。

岡本　保　中四十一回卒
お招きをいただきながら、体調悪く出席できないことをお許し下さい。
世話役の皆さん、本当にご苦労さまです。ご盛会を祈ります。

吉野　哲郎　中四十二回卒
旧制中学四年生の夏、敗戦～引揚げ。二ヵ月半お世話になり昭和二十一年三月、四年生で卒業させて頂きました。短かい日々ですが忘れ得ません。ご隆盛を祈ります。

大井　利作　中四十三回卒
岡本初代会長の変らぬ元気なお姿を拝見して、大変嬉しく思います。
幹事の皆さんご苦労様です。

野口　文一郎　中四十三回卒
去る八月二十三日、掛中四十二、四十三回卒、同級会に出席、盛会でした。（掛川駅南口・パレスホテル）今回、他行事と重なり欠席します。

伊藤　寛　中四十三回卒
お遅くなりました。よろしくお願いします。
夏は中国河北省石家庄、天津に教えに行っています。つい遅れました。

石田　武　中四十四回卒
完全リタイア後八年経過。
お陰様で毎日を健康維持、知的好奇心の充足に、消光しています。

兼子　治平　中四十四回卒
冀北四四二期会（中四十四、高一卒、首都圏在住者主体、全国版）は研究社石川雅信君が再興して爾来三十有余年、会員の活躍分野も広く多岐、農水省、労働省、国税庁、公認会計士、税理士、NTT、中電、朝日新聞、中日、東京、日刊工業、電通、研究社、三和銀、駿河、静銀、日産火災、ゼネ石、日立、富士、明電舎、東京精密、等多士済済、本年三月には、東京大崎の料亭にて乾杯。掛川市の松浦博三君より借りた校歌のCDにて大台唱、大盛会。

伊藤　寛治　中四十四回卒
ご連絡有難うございました。何分にも老齢につき欠席します。しかしあの天守台下の母校のことは忘れません。

雑賀　萬治郎　中四十四回卒
祝。第二十回記念東京冀北会。

本多　道昭　併二回卒
会のますますの発展を祈っております。

滝根　一秀　高二回卒
冀北会二十周年おめでとうございます。何とか出席したいものと思っておりましたが、妻パーキンソン病で諸事不自由であるため残念ですが欠席致します。現在二人暮しですので止むなくと云う事です。あしからず。

松浦　譲　高二回卒
大動脈瘤破裂後（日十九、六）肺癌が見つかり闘病生活中につき欠席させて頂きます。皆様によろしく。

山下　博　高二回卒
出席の皆様お元気でなによりです。小生高齢のため体調が少し秀れず出席できませんが今後共よろしくお願い申し上げます。

松野　等　高二回卒
昨年、腎不全になり現在、透析中に付き欠席致します。

朝比奈　秀次　高三回卒
東京冀北会設立二十周年を心からお祝いします。母校の優秀な先輩後輩は私の自慢です。東京冀北会は掛中掛西同窓会に替る首都圏の同窓会と思います。他県他高に類を見ない名門校の誇りです。

粂田　光三　高三回卒
ご苦労様です。
継続は力、これからもがんばって下さい。会の成功を祈ります。
高二の連中によろしく。

黒田　洋平　高三回卒
海外ボランティアの仲間として、伊藤和也君の死を悼みます。献杯をお願いします。

中村　幸雄　高三回卒
母校及び当会の弥栄を祈る。

水野　忠男　高三回卒
昨今第二次世界大戦の終戦前後がマスコミで盛んに報道され、その毎に当時を回想させられます。われわれ同期は戦時中の掛川中学に一学期だけ在学し、二学期から終戦後の掛川西高に併設中学から六年間通学しました。今は懐しい思い出ですが、当時は辛苦の日々でした。そんなことを思いながら今はよき時代だと実感しています。

青木　英雄　高三回卒
戦後生れの同窓が大部分になったと思います。私は昭和一ケタ生まれとして憲法九条を守ることに頑張りたい。

中村　正雄　高三回卒
祝二十周年。今後も御発展を祈ります。五十七年前（一九五一年二月八日）NHK（浜松）の学生の時間（掛川西高）で学校の紹介を担当したのをアルバムを見ると思い出します。

内藤　芳男　高三回卒
会を創る事は簡単、継続は難しいと云った岡本初代会長のことばは正に名言。ここに二十周年を迎えたことは歴代会長、幹事の方々を始め会員の熱意と努力の賜物で誠に喜ばしく存じますと共に、その盡力に敬意を表します。
今後三十年、四十年、五十年に向けて益々発展していく事を祈念申し上げます。

伊藤　金弥　高四回卒
・二十回記念総会お目出とうございます
・歴代幹事諸兄姉に感謝しております。
・健康に留意して一回でも多く出たいと思っております。

小栗　秀介　高四回卒
体調不良で病院通いが続いております。その日の調子によって良かったり悪かったりしますので、一応欠席とさせて戴きます。皆様によろしくお伝えト さい。

落合　暁雄　高四回卒
冀北会二十周年おめでとうございます。
役員の方々のご努力に感謝申し上げます。
小生、老人クラブの行事があり欠席させていただきます。ご盛会ならびに会員の健勝を祈念申し上げます。

武内　恭久（平松）　高四回卒
毎年幹事役御苦労様です。いつでも感謝の気持です。東海道線、新幹線共に掛川を通過するときは心の中で校歌をうたっています。
これからも自分自身健康に気をつけて、長く冀北会に出席出来る様努力したいと思います。

松井　喬　高四回卒
小人閑居して不善もなさずの年金生活です。お元気な皆様にお目にかかれるのが楽しみです。本会が益々発展することを期待しております。

川島　常雄　高四回卒
東京冀北会設立二十周年おめでとうございます。おかげさまで元気で暮しておりますが、この秋以降多忙なことになりますので欠席させていただきます。ご盛会をお祈り申し上げます。

金子　洋子　高五回卒
昭和二十八年に高校を卒業し、今七十三歳になりました。心は当時とあまり変っていないのに月日の経過は外見と身体の衰えに正確に現れてしまっています。二十年位はあっと云う間ですよね。気持だけは若々しくいたいと思っています。

川島　次郎　高五回卒
この二十年、先輩諸氏の創業の心を継承、発展させ、今や当時の若手の皆様が中心になっていて心強い限りです。しかし、この先の二十年は格別の創意工夫が必要になると思います。

小林　一隆　高五回卒
二十周年お目出度うございます。静岡県出身の少い川越に住みついて約四十年、民生委員を十六年目、地区の老人会長を六年「小さな親切運動」の実行委員を二十二年、趣味の「端唄」で国立劇場にも立っています。

大橋　基宏　高七回卒
東京冀北会二十周年、誠におめでとうございます。歴代役員の皆様方の御尽力賜と敬意を表します。我々会員も事情が許す限り、年一回の会合に参加して参りましょう!!
掛川の町も年々雰囲気が変っていると感じますが、私達の心は不変でありたいと念じます。

鍋代　隆士　高七回卒
昭十一年子年生まれ、六回目の年男、古稀をすぎて体の節々までコキコキして来ました。
平成とともに歩んだ東京冀北会のますますの発展をお祈り致します。

山本　宗光　高七回卒
いつも、ご案内ありがとうございます。残念乍ら参加出来ませんが母校と東京冀北会の発展を祈っています。

伊藤　卓三　高七回卒
冀北会の益々のご発展を祈っています。皆様によろしくお伝え下さい。

青野　信男　高八回卒
お世話様役ご苦労様です。
今後もよろしくお願い致します。

川村　弘史　高八回卒
二十周年おめでとうございます。
ご盛会をお祈り申し上げます。

小杉　慎一　高八回卒
私達高八期生で毎年会を開催三十名程皆さんと元気に活動してます。
私はこれで十分満足してます。冀北会皆様のご健勝を祈ります。

守屋　美知江　高八回卒
この度もいろいろと御世話様になります。二十周年と云う記念の会に欠席で残念でございますが、ご盛会をお祈り申し上げます。

田中　義朗　高八回卒
継続は力なり！
バスケットボール　シニア全国大会

で頑張っています。沖縄大会では、そのプレーを琉球放送に取り上げられました。

大井　敏子　高九回卒
御盛会でありますように。
事務局の皆様、関係者の皆々様に感謝しております。欠席ながら、会費は続けさせて頂きますのでよろしくお願い致します。

斉藤　清　高九回卒
仕事の都合上欠席します。

鈴木　由紀子　高九回卒
同窓会長、河原崎様同年でごくろう様です。
お世話の方々本当にいろいろありがとうございます。

角皆　静男　高九回卒
十二月二日に掛西高に行き、七十歳が十六、十七歳の若者に海の話をしてきます。「海が私達に与える影響、私達が海に与える影響」に対する理解を深めるためです。

花島　美喜子　高九回卒
古稀を迎える年になりました。丁度二十回記念の年との事。何かひとつ区切りの年のような気がいたします。のり超えて生きる元気を皆様からいただけるのではと期待しております。よろしくお願いいたします。

山本　由来子　高九回卒
二十周年おめでとうございます！

神谷　祐司　高九回卒
いつもご案内有りがとうございます。返信遅れて申し訳け有りません。小生体調が悪く見通しがつかないので返信遅れました。少し調子が良くなって来ましたので申込みします。宜しくご手配お願い致します。

三浦　熱　高九回卒
体調不良が続いているため、欠席させて頂きます。
二十周年のご盛会を祈ります。

高木　勇　高十回卒
元気で人生を楽しんでいます。
掛西時代は青春を楽しむ余裕がなかった分、これからが本番です。

常盤　敏時　高十回卒
会長はじめ幹事の皆さんいつもお世話になります。先約があり今回は失礼致します。
東京冀北会設立二十回目。誠におめでとうございます。心からお祝い申し上げます。今後一層の盛会を祈念申し上げます。

村田　繁　高十回卒
日本シリーズ中にて失礼します。盛会と母校の文武両道を願っています。

石山　征二　高十一回卒
早や二十周年!!　お祝い申し上げます。役員方々諸先輩、お疲れ様でした。今後の増々の発展を～。

後藤　忠弘　高十一回卒
おめでとうございます。

野末　榮一　高十一回卒
掛西卒業、五十周年の年です。これからの五十年を展望したく思います。すぐそこです。

藤江　哲夫　高十二回卒
二十周年、お目出とうございます。
今回初めて出席します。
よろしくお願い申し上げます。

木野　智弘　高十二回卒
東京冀北会二十周年お目出とうございます。
山崎事務局長さまはじめ、スタッフの皆さまご苦労さまです。

松村　宏　高十二回卒
毎回幹事ご苦労様です。同期の参加状況うまく行っていますか？

近藤　隆彦　高十二回卒
山崎幹事長御苦労様です。今回初参加ですが宜しくお願い申し上げます。

上杉　英夫　高十三回卒
発会の年は、勤務地が金沢の為、出席出来なかったが、四回目から出席を続けている。もう二十周年か!!との思いの一方、己も年を重ねたナとの思いが交錯している次第です。

池田　孝子　高十四回卒
あの発会式パーティーから二十年にもなるのですね。運営委員の方々の御努力に感謝致します。
東京に居ながら掛西魂を暖めあえる場として、増々の発展をお祈りします。

小川　伊佐男　高十四回卒
・四十一年間の会社生活を終え自分の家（加古川）にもどり、田舎生活のスタートです。
・幹事様御苦労様です。
いつもお世話になっております。

中山　恵文　高十四回卒
私達高十四回卒は昭和三十七年卒より三七和会（ミナワカイ＝皆若い）と称し同期会を開いておりましたが三七和会東京支部は東京冀北会の発会時に十五名が集まり、それを機会に発足して以来、不定期ではありますが年に数回の懇親会を開いております。この秋は十一月八日～十日。

中山　紀子　高十四回卒
月日の経つ早さに驚いております。これからも楽しい会合が続くように努力しましょう。

山本　格治　高十四回卒
御盛会を祈ります

戸田　鶴世　高十四回卒
皆様にお会いするのを楽しみにしています。御苦労様です。

後藤　顕之輔　高十四回卒
遅くなりましたがよろしいでしょうか？私も高十四回の卒業生で、今年の四月に四十一年間の明電舎生活を終え、現在を迎えております。前期高齢者の仲間入りもこの九月から致しました。

和田　二弘　高十四回卒
元気に年金生活してます。

清水　康二　高十五回卒
皆さんご苦労様です。

天方　信久　高十六回卒
○七・八・二十一～東京通勤してましたが、九月末をもって終了します。free day ですので出席不可です。二十周年おめでとう御座います（日立市在住）

石川　清子　高十六回卒
のんびりと日常性に埋没しております。でもやる事は多々あります。

富永　美子　高十七回卒
いつもお知らせいただきありがとうございます。
盛会をお祈りしております。

鬼頭　敬子　高十八回卒
住いは神戸ですが、十八回卒、同期の朝比奈さんの話を伺いたく、参加させて下さい。

榑林　俊雄　高十八回卒
出席したいと考えておりますが、衆議院解散等政治日程により出席できないこともあり得ますのでご了承下さい。

滝口　靖興　高十八回卒
久しぶりに皆様にお会い出来る事を楽しみにしております。

富永　二郎　高十九回卒
六十過ぎて、なお勤めております。世に言う貧乏暇無シです。
七月に初孫が生まれまして、公私共に充実した日々を送っています。
皆様によろしく！お伝え下さい。

武田　陽子　高二十回卒
静岡を離れて久しくなります。掛西で若き日を過すことが出来た事を誇りに思いしなやかに流れにまかせ生活しております。
貴会の益々の発展を皆様のご健勝をお祈り申し上げます。お会いする日まで!!

寺澤　康夫　高二十回卒
御盛会をお慶び申し上げます。
いち度も出席できませんが、開催時期の春季を御一考願えれば幸甚です。
十一月十二日は繁忙期につき、参加困難です。

森田　重敏　高二十一回卒
総会には十年目くらいまでは仕事が忙しく不参加でしたが、このところ毎年参加し、皆さんと楽しくお話させています。労働金庫に勤めて三十年以上が経ちました。今後も同窓生の皆様と交流を深めさせていただければと思っています。

内田　金男　高二十二回卒
東京冀北会二十周年を迎えたことお慶び申し上げます。平成元年より、この会の運営のために、ご尽力された方々には、深く感謝する次第です。これからも私達同窓生の心の支えとなるよう維持・発展を願っております。

市川　仁　高二十三回卒
二十周年を迎え幹事の方々のご努力に感謝致します。

古宮　博幸　高二十四回卒
二十周年、誠におめでとうございます。
ますますのご発展をお祈り申し上げます。
営業を担当しておりまして、出張が多く、当日は出席が叶わず申し訳なく思います。

伊藤　孝史　高二十四回卒
当会発足二十年おめでとうございます。幹事の皆様、毎年ご案内等いただきありがとうございます。今まで、なかなか出席できませんでしたが、今回出席できることとなりました。今後とも宜しくお願い致します。

高橋　八恵子　高二十七回卒
おめでとうございます。
ますますの御発展、祈念致します。
弓道部顧問をしています。今年は地元川越でインターハイが七月下旬開催されました。また、今年は本校生徒も関東大会に出場し、五位に入賞しました。

鷲山　雄一　高二十八回卒
夏の冀北会総会で久し振りに会った二十八回の伊藤―松本バッテリーは元気そうでした。母校の新チームにも大いに期待しています。

杉山　文章　高二十九回卒
昨年台湾（台中）に赴任致しました。

赤堀　宏幸　高二十九回卒
バドミントンを取材する機会があり、協会理事になられた中山先輩から「ぜひ出るように」といわれました。今日のバドミントンブームの基礎を作られたことを二十周年に強く刻んでいただけたらと思います。

岡田　健治　高三十回卒
二十周年おめでとうございます。
若手参加のムード作りについて検討が必要と感じます。（今後の発展に向け）

鈴木　妙子　高三十一回卒
平成元年から神奈川県民ですから、会とほぼ同級生。いつもご連絡いただきありがとうございます。
高校生活満喫中の高三の息子を見ると、自分の頃を懐かしく思い出します。

落合　森之　高三十一回卒
東京冀北会設立二十周年おめでとうございます。今後とも、二十周年、四十周年と続いていきますよう益々の発展を祈念いたします。

鈴木　美智雄　高三十二回卒
二十周年おめでとうございます。先輩諸志の方に御礼申し上げます。今後も益々発展する事を祈願しております。

永井　治宏　高三十二回卒
返信遅くなり申し訳ありません。仕事の都合が付けば出席したいと思っておりましたがやはり大阪からの出席は無理そうです。東京冀北会の皆様によろしくお伝えしていただければと思います。重ねまして二十周年おめでとうございます。

訃報

烏井　陸八　中二十五回卒
ご家族から訃報の連絡ありました。

松井　一夫　中四十回卒
本年一月十九日、お亡くなりになりました。

赤堀　哲朗　中四十一回卒
去る二十年四月九日に、夫、赤堀哲朗が逝去いたしましたのでお届けいたします。
赤堀蓉子

清水　宏之　併二回卒
父、宏之は、二〇〇五年二月に他界致しました。

秋山　晋　高三回卒
夫、秋山晋儀、病気にて、六月二十九日永眠いたしました。葬儀は故人の意思により近親者のみにて七月二日に執り行い、通知をご遠慮させていただきました。夫は生前、皆様のご厚情に深く感謝いたしておりました。夫になりかわりまして厚く御礼申し上げます。（秋山文柄）

横田　宣夫　高四回卒
いつもお世話になっております。
今年四月二十四日に病気にて他界致しました。いろいろとありがとうございました。

中山　司朗　高五回卒
平成二十年一月十四日心筋梗塞にて永眠いたしました。大変お世話になりました。どうぞ皆様によろしくお伝え下さいませ。

堀内　正雄　高八回卒
二十周年おめでとうございます。幹事様には、大変お世話になり、ありがとうございます。
※二十周年に関係なく、申し訳ありませんが、連絡に使わせていただくことお許し下さい。同級生同志で結婚しました夫、堀内正雄、平成二十年二月十日死去いたしました。
東京冀北会では大変お世話になり、ありがとうございました。
玲子
（旧姓　三枝　高八回卒）

内藤　好雄　高十三回卒
平成二十年一月に他界いたしました。
生前はお世話になりました。冀北会のますますのご発展をお祈り申し上げます。
内藤　内
（旧姓　谷高　高十三回卒）

東京冀北会　役員

平成一九年一一月八日

役員選任の件
※任期は二年間です。

会長　河原崎　守彦（高九）
副会長　横山　隆治（高十）
〃　渡辺　明子（高十六）
〃　鈴木　正具（高十九）
代表幹事　中山　恵文（高十四）
会計監査　遠藤　義昭（高十六）
〃　森田　重敏（高二十一）
名誉会長　杉田　隆（高四）
名誉顧問　岡本　甲子男（中三十八）
〃　大貫　満雄（中四十一）
〃　柳沢　伯夫（高六）
〃　黒田　淳之助（掛中・掛西同窓会長）
〃　名倉　愼一郎（掛川西高校長）
顧問　松本　信孝（中二十四）
〃　花島　浩（高五）
〃　内田　太治郎（高六）
〃　赤岩　覚（高十）
〃　澤崎　喜代子（高十一）
〃　野末　栄一（高十一）
〃　落合　一成（高十二）
〃　中山　紀子（高十四）
事務局長　山崎　進（高十二）
幹事　全員留任
名誉顧問　石川　嘉延（高十一）